

[調査報告]

保育者養成校による実習巡回訪問指導の日程調整に関する調査

三 好 力
土 屋 由
志濃原 亜美

A Survey Report Concerning Schedule Adjustments for Visiting Practical Instructors
Made by a Nursery Teachers Training Institute

Chikara Miyoshi
Yu Tsuchiya
Ami Shinohara

キーワード：保育者養成校、実習、訪問指導

要約：本調査では、保育士資格と幼稚園免許の取得を目指すものをあわせて保育者養成として取り扱い、その際に行われる実習の巡回訪問指導についての実態を明らかにすることが目的である。特に実習施設の立場から実習巡回に何う望ましい時期は実習期間のどの辺りなのか、時間はいつなのかを学校の都合ではなく、園や施設の希望を調査した。その結果、実習の巡回訪問指導の予約連絡を入れるよい時期は、概ね1週間前までであった。また、訪問指導する時期は、実習に出て1週間目前後を中心とする。時間は、いずれも12:00~13:00は除外され、幼稚園では午前中が望ましく、保育園と福祉施設に関しては、午後もあわせて良いとされた。

1. はじめに

保育者養成校では、保育資格取得や幼稚園教諭の免許取得に際して、保育実習や教育実習が課せられている。実習においては、巡回訪問指導(巡回指導、訪問指導ともいう)を保育士養成校においては必須であり、教育実習においても同様に行っているところが多いと思われる。本調査では、保育士資格と幼稚園免許の取得を目指すものをあわせて保育者養成として取り扱い、その際に行われる実習の巡回訪問指導についての実態を明らかにすることが目的である。

保育者養成における実習のあり方は、21世紀に入りここ20年の間に大きく変化している。山岸(2002)によれば、社会福祉関連資格の一つである介護福祉士の実習では、週2回の巡回が義務付けられているが、当時の保育実習では実習訪問指導が義務づけられていないことを指摘し、全実習学生において平等な実習環境を設定する必要がある、それが実習巡回の必要性として提示している。同じ厚生労働省所管の資格でありながら、実習巡回の訪問指導では遅れている部分があった。そして山田(2006)は、保育実習の訪問指導について、現状学生に向けた個別指導を目的の一つとしている養成校が約4割と少なく、実習報告書に関する記録様式が5割の養成校にしかないことに対して、保育実習の訪問指導に対する基準が脆弱である問題を指摘し、訪問指導の位置づけの必要性や見直しを提言した。さらに、保育実習指導のミニマムスタンダード試案について、実習プログラムや評価表、さらに訪問指導について提言している。保育実習実施基準の変遷と共に、2008年、2017年の「保育所保育指針」の改定、2010年、2018年の保育士養成課程の改正等、を経て新しい時代に合わせた保育実習指導を進めるために、全国保育士養成協議会(2017)は「保育実習指導のミニマムスタンダード」を策定した。その保育実習において重要な指導内容が、実習巡回訪問指導である。その中で「訪問指導」は、学生が実習を実施している時間に実施している場で、養成校の教員が直接指導する重要な機会であることが示され、「実習期間中に実習施設を訪問し、実習施設の指導担当職員と連携しながら訪問指導によって学生を指導すること」との厚生労働省の「局長通知」を踏まえてその役割を明示している。また、学生が実習している場で、具体的に学生が得た手応えや課題を共有し、確認する機会や課題の困難性に直面している学生への支援する機会であるという重要性を示している。

本校における保育実習の巡回訪問指導は、幼稚園の教育実習、保育園への保育実習、福祉施設への施設実習が行われている。その中でもそれぞれの実習施設の機能や特色により巡回訪問指導に対する考え方などが違うことや対応の仕方も千差万別であると思われる。本校では、巡回訪問指導の予定を予約する上でも実習が始まってから行うことが推奨されていたが、実習園や施設ではそれをのぞんでいるのかどうか。また、実習巡回に伺う望ましい時期は実習期間のどの辺りなのか、時間はいつなのかを学校の都合ではなく、園や施設の希望を知るためにアンケート調査を行い、その結果をまとめて報告するものである。

2. 方法

秋草学園短期大学において 2018 年 11 月に行われる実習連絡協議会への出欠席の案内と同封する形で実習担当者にアンケートを行った。アンケートの目的は、実習巡回を効果的に行うための調査とし、実習委員会において許可をもらい実施した。回答された内容は、組織的な回答を求めているために今後の実習巡回の参考として利用すること、また統計的に処理されたデータに関しては、研究発表として公開することを文章で呈示した。実習連絡協議会への出欠席の案内およびアンケートは、実習連絡協議会の会場のキャパシティの関係上、全ての実習先に送っているわけではなく、特に実習施設としてよく利用されている園や施設を選んでいる。

調査内容は、プロフィール項目として、施設（園）名、選択肢形式により受け入れ実習の種別（幼稚園実習・保育実習・施設実習）、選択肢形式による回答者の役職（園長(施設長)・副園長(副施設長)・主任・実習担当・幼稚園教諭・保育士・その他)である。質問項目本文としては以下のとおりである。「Q1. 教員から実習巡回の日程調整のご連絡はいつ頃入れて欲しいか」「Q2. 2 週間の実習の中で実習巡回に教員が伺う日程はいつぐらいが望ましいか」「Q3. 実習巡回の教員が伺ってよい時間滞(複数選択)」「Q4. 実習巡回の教員が伺う時間として望ましい時間はいつか」「Q5. 実習巡回時にいつも行っていることは何か(複数選択)」である。

3. 結果

回収されたアンケート数は、幼稚園 105 園、保育園 50 園、福祉施設 77 施設であった。回答者の役職の内訳は以下のとおりである。なお、重複して回答しているものもあり、それらは各々の役職に振り分けるのではなく、そのまま一つの 카테고리としてカウントして示すことにした。

幼稚園は（役職回答数 98）、園長 49、主任 19、副園長 13、実習担当 8、主任・実習担当 5、実習担当・幼稚園教諭 1、主任・実習担当・幼稚園教諭 1、教頭 1、副主任・実習担当 1 であった。保育園は（役職回答数 25）、園長 11、主任 7、実習担当 3、副園長 2、保育士 1 であった。施設は、実習担当 40、主任 15、副施設長 5、保育士 3、施設長 2、園長 1、支援長 1、支援長補佐 1、副園長 1、その他 7 であった。この回答結果から見ても幼稚園では半数近くが園長によって回答されており、実習の責任者を担っていたり、窓口になっていることが伺える。同様に保育園でも役職の回答数 25 の半数近くが園長であり、園長が実習の窓口として対応しているところが多いことみてとれる。対して施設では（役職回答数 76）、園長や施設長クラスは 3 であった。実習担当者が 40 となっており、実習担当が役割として作られているところが多いようである。これらの結果からも巡回時にアポイントメントを取る際にも園や施設により窓口が異なることがわかる。

3-1. 実習巡回の日程調整を行う時期について

教員が実習巡回の日程調整するためのアポイントメントの連絡はいつ頃入れるべきなのかを確かめるために「Q1. 教員から実習巡回の日程調整のご連絡はいつ頃入れて欲しいか」を設定した。選択肢形式で「4週間前」から「実習2～3日後」までの期間に「いつでもよい」を加えた9項目から選ぶようにした。その結果を図1～図3に示す。

幼稚園、保育園、施設ともに5割の回答実習園（施設）が「4週間前」～「1週間前」までを希望していた。またいずれも3割ほど「いつでもよい」と回答している。これらのことを鑑みると「いつでもよい」を含めて1週間前までにはアポイントメントの連絡を入れることが望ましいといえる。少数ではあるが実習初日以降を希望する回答もあることから、園（施設）によっては個別に対応する必要があるともいえる。しかし、個別の状況によるイレギュラーな対応は、どのような場面でも想定されることから基本対応としては、1週間前までのアポイントメントの連絡が望ましいことが推察される。教員から実習巡回の日程調整については、幼稚園、保育園、施設ともにあまり大きな差はないことがわかった。

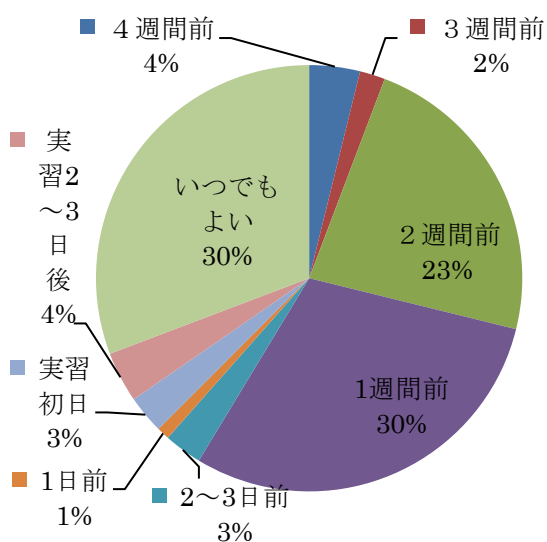


図1 教員から実習巡回の日程調整の連絡を入れる時期 (幼稚園)

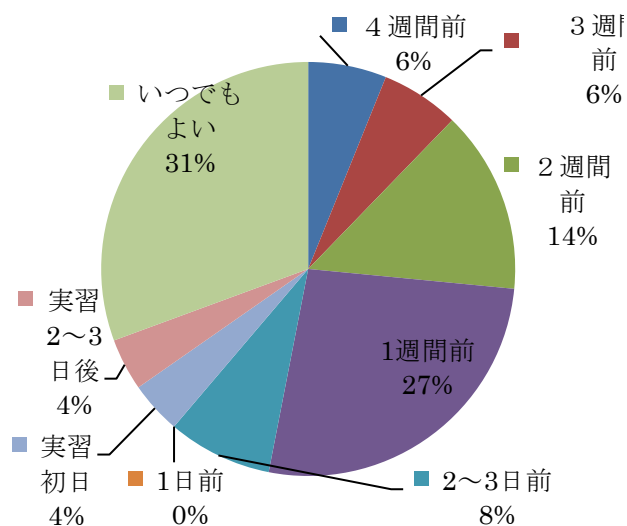


図2 教員から実習巡回の日程調整の連絡を入れる時期 (保育園)

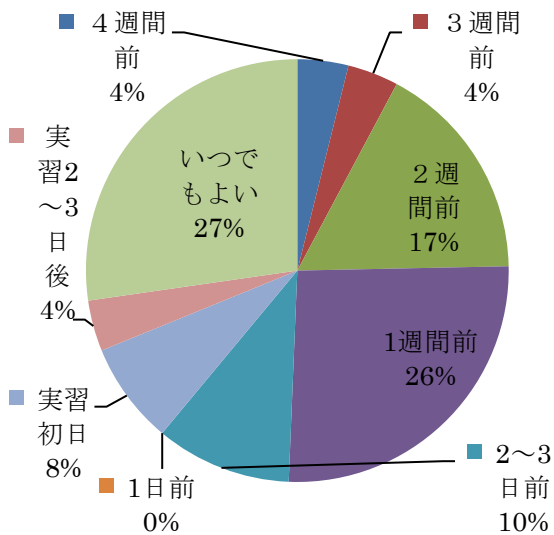


図 3 教員から実習巡回の日程調整の連絡を入れる時期 (施設)

3-2. 実習期間中の巡回タイミングについて

教員が実習巡回を行う際にいつ頃巡回するべきなのかを確認するために「Q2. 2週間の実習の中で実習巡回に教員が何う日程はいつぐらいが望ましいか」を設定した。この項目は、選択肢形式で「初日」から「最終日辺り」までの期間に「いつでもよい」を加えた7項目から選ぶようにした。その結果を図4～図6に示す。

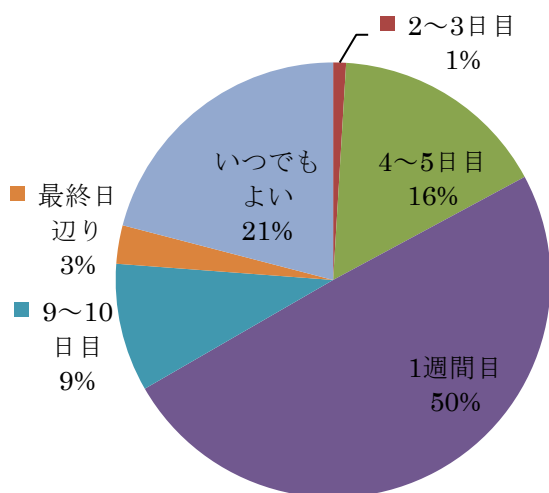


図 4 実習期間中の最適な巡回タイミング (幼稚園)

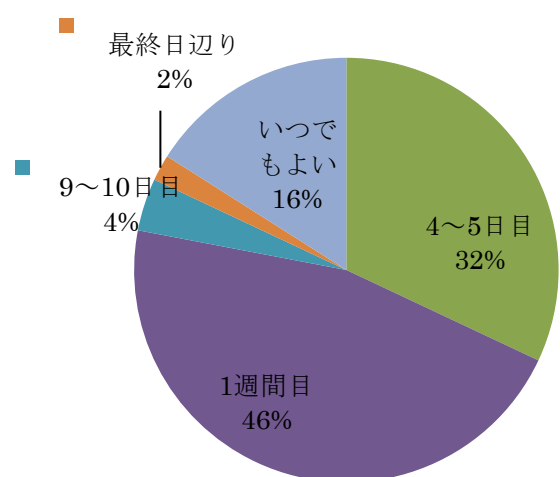


図 5 実習期間中の最適な巡回タイミング (保育園)

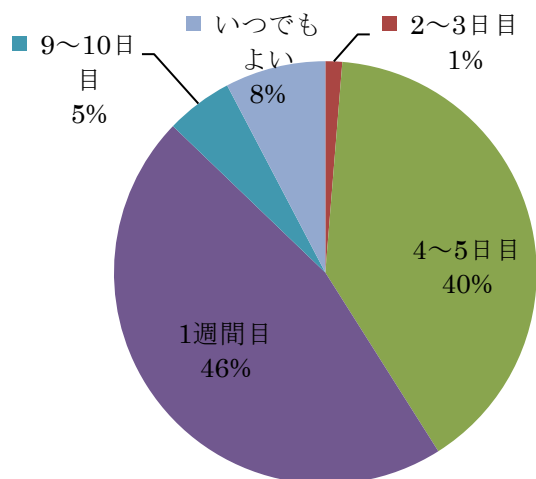


図 6 実習期間中のベストな巡回タイミング(施設)

幼稚園、保育園、施設ともに約 5 割の回答実習園（施設）が「1 週間目」を希望していた。また 4～5 日までを含めると幼稚園では、16%を加えると 66%になり、保育園では 78%になり、施設では 86%にまでなる。さらに「いつでもよい」との回答を加えると幼稚園では 87%、保育園では 94%、施設では 94%になる。これらのことを鑑みると「いつでもよい」を含めて 4～5 日前から 1 週間目あたりに実習巡回の日程を呈示することが望ましいといえる。

特徴的なのは、幼稚園では 9～10 日目と最終日に 12%の回答園が希望している。これらは保育園や施設に比べて若干多いといえる。幼稚園の教育実習においては、責任実習への立ち会いや見学を望む園もあることを推察させる。しかし、1 割程度のイレギュラーな対応は、どのような場面でも想定されることから基本対応としては、1 週間目あたりの実習巡回の日程を設定することが望ましいことが推察される。

3-3. 実習巡回の教員が伺ってよい時間滞について

教員が実習巡回を行う際、いつ頃巡回するべきなのかを確かめるために「Q3. 実習巡回の教員が伺ってよい時間滞(複数選択)」を設定した。この項目は、選択肢形式で「9:00～10:00」から「17:00 以降」まで 9 項目から選ぶようにした。その結果を図 7～図 9 に示す。

この項目は、複数回答が可能であることから全体の数からの百分率で呈示した。幼稚園、保育園、施設で 50%以上の回答があった時間帯は、幼稚園では、10:00～12:00 のみであった。保育園では、10:00～11:00 と 13:00～15:00 の 3 時間。施設では、10:00～12:00 と 13:00～16:00 の 5 時間との回答があった。幼稚園では午前中のみを希望しており、お昼の時間帯 (12:00～13:00) は、いずれの実習においても望まれてはいない。保育園と施設に関しては、午後の時間についても巡回することを構わないとしている。幼

稚園と保育園、施設では事情が大きく異なることがわかる。

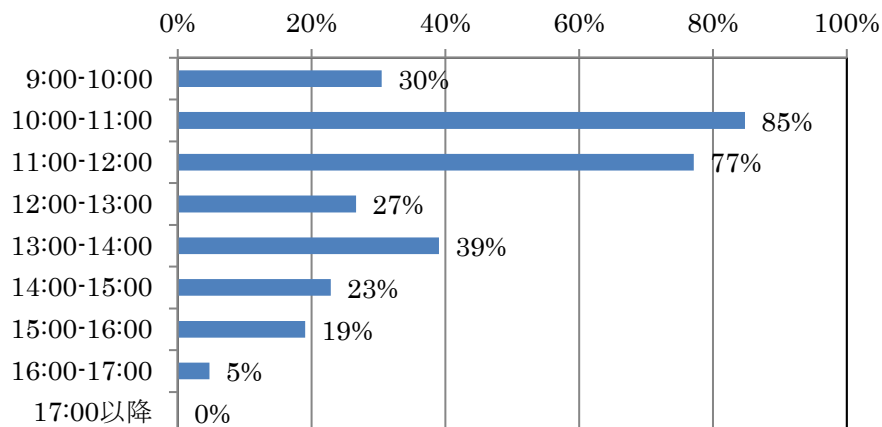


図 7 実習巡回の教員が何ってよい時間滞 (幼稚園)

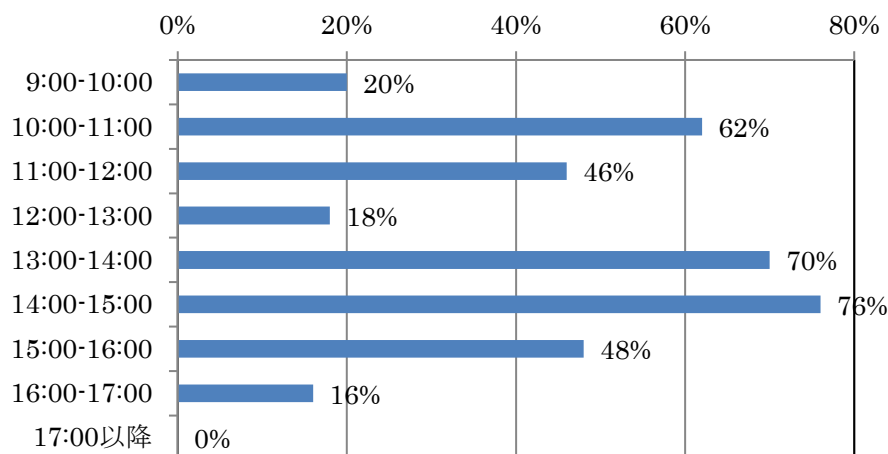


図 8 実習巡回の教員が何ってよい時間滞 (保育園)

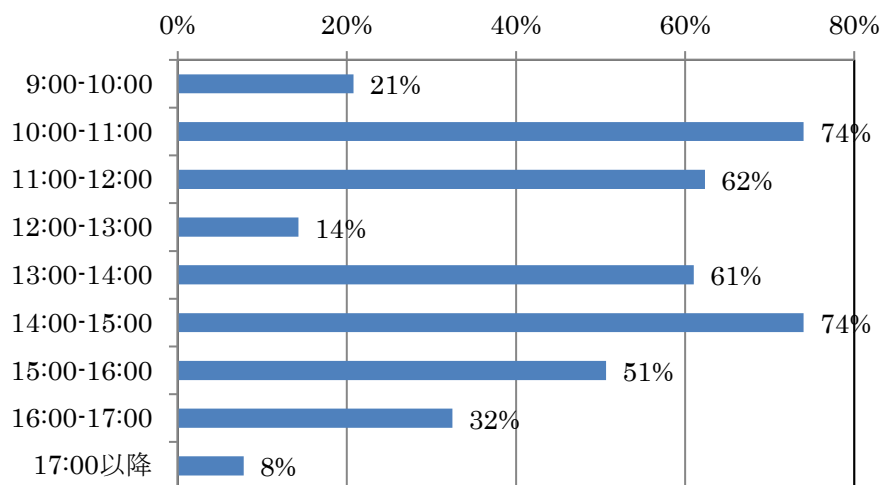


図 9 実習巡回の教員が何ってよい時間滞 (施設)

3-4. 実習巡回の教員が伺うよい時間について

教員が実習巡回を行う際に一番よい時間帯はいつ頃なのかを確かめるために、複数選択肢ではなく単一選択によって回答を求めるために「Q4. 実習巡回の教員が伺う時間として望ましい時間はいつか」を設定した。この項目は、選択肢形式で「9:00～10:00」から「17:00以降」まで 9 項目から選ぶようにした。その結果を図 10～図 12 に示す。

先の実習巡回に訪問してよい時間帯について幼稚園は午前中のみが望ましく、保育園と施設に関してはお昼をのぞく 10:00～15:00 辺りという結果に準じ、幼稚園は午前中 10:00～11:00 で 57%、11:00～12:00 が 26% で合わせて 83% になる。保育園では午後の 14:00～15:00 に 45% が一番望ましい時間帯としており、午睡のあとを希望しているようである。また、10:00～14:00 までの時間帯に 63% 希望しており、いずれの時間帯も園による個別の状況、担当者の事情によるところが大きいと思われる。

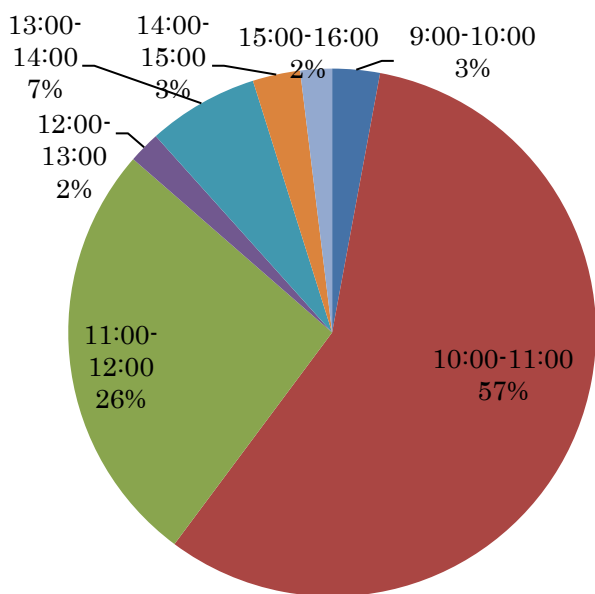


図 10 実習巡回の教員が伺うよい時間（幼稚園）

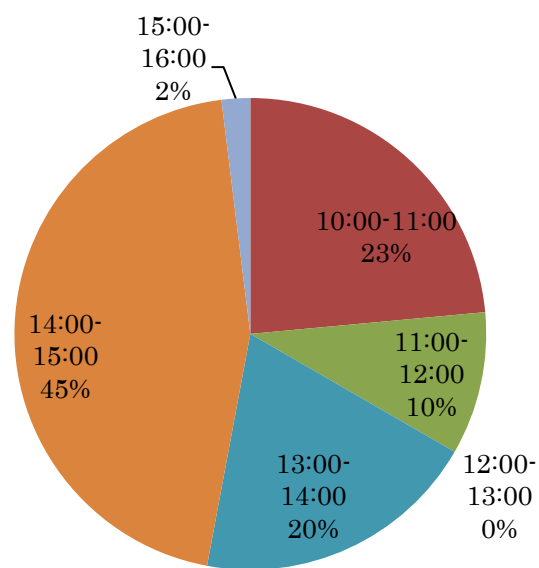


図 11 実習巡回の教員が伺うよい時間（保育園）

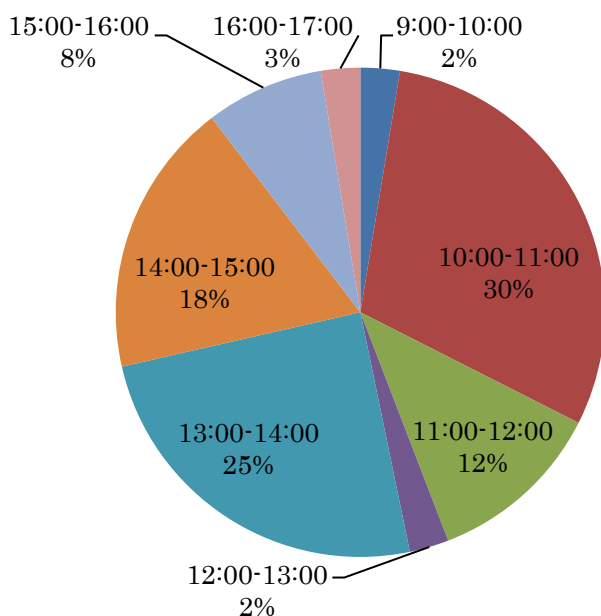


図 12 実習巡回の教員が何うよい時間 (施設)

施設においては、幼稚園や保育園ほど極端に大きな特徴といえるような望ましい時間帯はない。一番多かった時間帯が、10:00～11:00の30%で次に13:00～14:00の25%であった。これ以外に10%を超えていた時間帯が11:00～12:00の12%、14:00～15:00の18%の2つの時間帯である。全体的にバランスよく分けられているためにベストな時間帯といえるものはない。

3-5. 実習巡回の教員が何うよい時間について

教員が実習巡回を行う際に行っていること、どのような環境が園や施設によって提供されているかを求めるために「Q5. 実習巡回時にいつも行っていることは何か(複数選択)」を設定した。この項目は、5つの状況を複数選択肢による選択を行うものである。状況を示す選択肢は、「①園や施設の実習担当者と教員の二者面談」「②園や施設の実習担当者と教員、学生との三者面談」「③教員と学生の二者面談」「④面談するための個室提供(または二者だけになれる環境の提供)」「⑤実習日誌を参考のために教員に提供」である。その結果を図13～図15に示す。

この項目は、複数回答が可能であることから全体の数からの百分率で呈示した。幼稚園や保育園、施設のいずれにおいても9割近い回答のあったものは、「③教員と学生の二者面談」である。次に多かったのが、「①園や施設の実習担当者と教員の二者面談」が、幼稚園で77%、保育園で78%、施設で73%であった。また、「④面談するための個室提供(または二者だけになれる環境の提供)」が幼稚園で50%、保育園で60%、施設で84%となっており、設備環境によるところが大きいといえる。

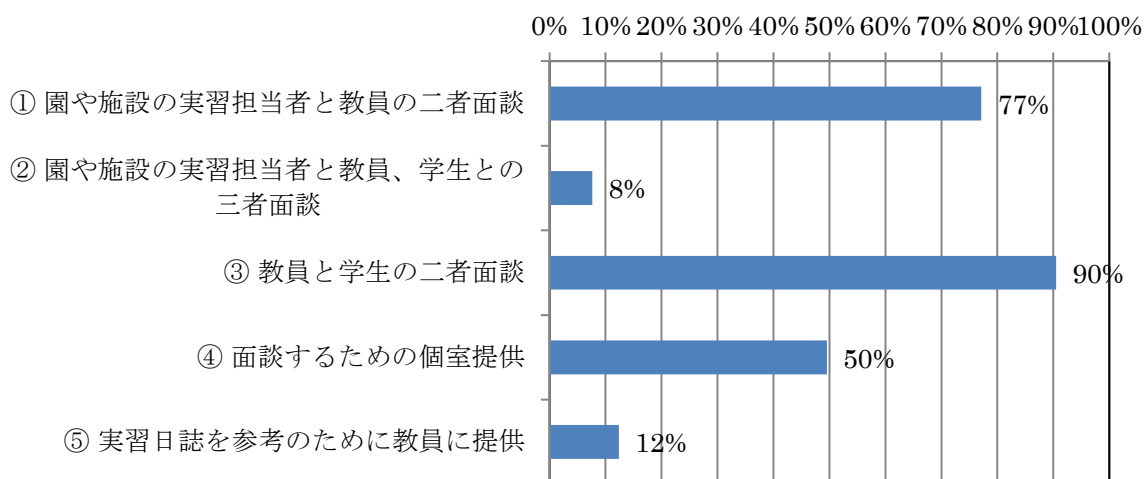


図 13 実習巡回時にいつも行っていること (幼稚園)

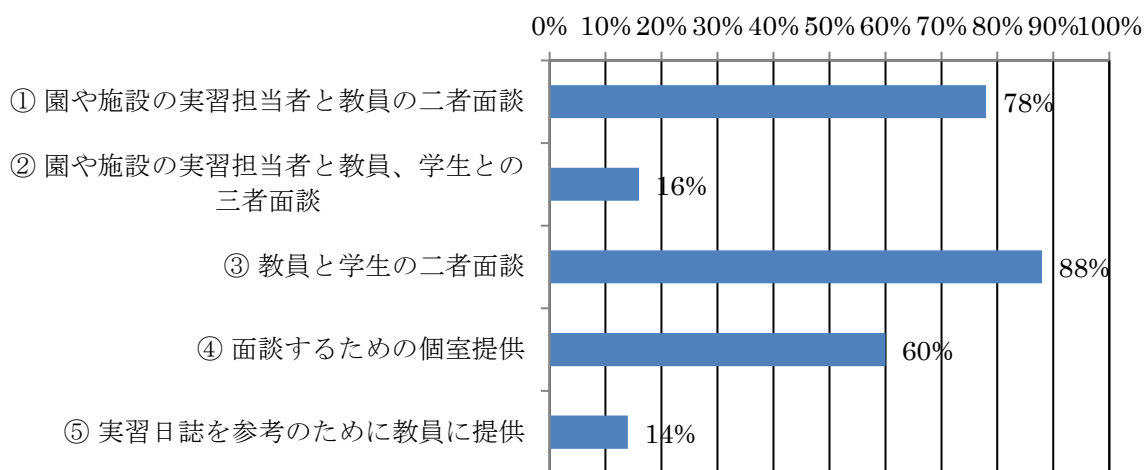


図 14 実習巡回時にいつも行っていること (保育園)

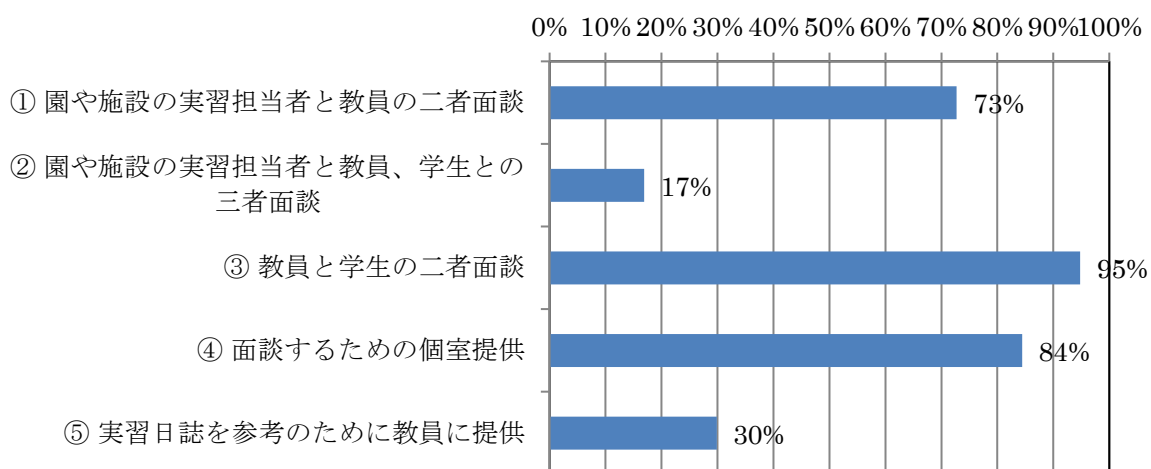


図 15 実習巡回時にいつも行っていること (施設)

4. 考察と課題

今回の調査では、保育者養成校の実習巡回が長い間組織的経験による慣習により行われていた実習巡回をより効果的に実施していく中で、訪問先である実習園や実習施設の意向などを確認し、より望ましい関係を作るための一助となることを目指している。これらの結果は、長い間言い伝えられていた組織的な慣習や教員の思い込みなど多くの勘違いなどがあったり、また経験則的に行われてきたことや感じていたことが裏付けされたりした結果もあるのではないかと推察される。

今回の結果から示されたことは、幼稚園、保育園、福祉施設のいずれも実習巡回のためのアポイントメントは、1週間前には行った方が良いということ。そして、いずれの実習においても実習巡回に訪問する日程は、1週間前後に設定することが望ましい。ただし、訪問時間は、幼稚園は午前中が望ましく、午後はあまり望ましいとはいえない。保育園と福祉施設に関しては、12:00～13:00 をのぞいた 10:00～15:00 の時間帯が望ましいといえる。また、実習園や施設では、実習巡回教員と実習担当との二者面談を行い、実習巡回教員と学生の二者面談を行うことがほぼ全ての実習園や施設で行われているということである。実習巡回教員は、これらのことを踏まえて実習の巡回訪問指導を行う必要があるといえる。

今回は実習の巡回訪問指導のシステムという問題について調査を行ったが、これらの結果はあくまでも実習先の都合から出されている結果である。実習の巡回訪問指導を学生の立場や教育的立場から考えたときには、これらの結果とは異なる実施策が必要になり、より良い環境や状況は異なることも考えられる。今後の課題としては、本調査では取り扱っていない学生にとって巡回訪問指導に来て欲しいタイミングや、教育的視点からより効果的な実習巡回の時期などの検討を行う必要があるといえる。

引用文献

- 山岸道子 (2002) 書評 「効果的な保育実習のあり方に関する研究 1」平成 14 年度全国保育士養成協議会専門委員会課題研究報告(保育士養成資料集第 36 号) 保育実習のあり方を模索する 保育士養成研究 (20) 149-153
- 山田勝美 (2004) 書評 効果的な保育実習のあり方に関する研究(2)平成 16 年度全国保育士養成協議会専門委員会課題研究報告(保育士養成資料集第 40 号) 保育実習指導のミニマムスタンダード確立に向けて 保育士養成研究 (22) 67-71
- 全国保育士養成協議会 (2017) 保育実習指導のミニマムスタンダード 2017 年版 全国保育士養成協議会